

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第2回 環境部会	
日時	平成22年10月21日（木）午前9時30分から午前11時40分	
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室18	
出席者	作業部会員 (敬称略)	井出 靖、志村雅由、山口智子、江口光雄、越 洋子、小山 明、清水久美子、堀池政史
	関係課員	財政課、環境衛生試験所、環境政策課、廃棄物対策課、生活環境課、清掃センター、衛生センター、農政課、農業土木課、森林整備課、観光課、河川課、公園緑地課、農業委員会事務局、上下水道局総務課、配水管理課、サービスセンター、浄水課、業務課、下水道建設課、下水道施設課、企画課（事務局）

会議次第

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 部会長・副部会長の選出
- 4 部会長・副部会長あいさつ
- 5 会 議
 - (1) 第四次長野市総合計画 前期基本計画の現況と課題
 - (2) 環境分野の質疑及び意見交換等について
 - (3) 市民フォーラム21 環境部会 ワークショップについて
- 6 ワークショップ

テーマ：政策2-3 良好な生活環境の形成
- 7 その他
 - (1) 今後の予定について
 - (2) 事前課題シート（宿題）について
- 8 閉 会

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 部会長・副部会長の選出

部会長は志村雅由部会員、副部会長は清水久美子部会員
- 5 会 議
 - (2) 環境分野の質疑及び意見交換等について
 - (1) 現況と課題P131の下水道等の普及率とはどういうものなのか聞きたい。
普及率とは、市内居住者の人口に対し、公共下水道、農業集落排水等を利用できる人口をパーセントで表したものである。
 - (2) 下水道等の普及率が、利用できる人の割合としたら、利用できる人のうち、利用している人の割合を聞きたい。
利用できる人に対し、汚水等の接続をしている人の割合については、水洗化率で表している。水洗化率は、平成21年度末現在で82.7%である。
 - (3) 現況と課題P127・P128の放置自転車について、何ヶ月ぐらいの基準で処分しているのか聞きたい。

長野駅善光寺口付近を自転車等整理区域として指定し、整理区域では、おおむね即日撤去している。保管期間は1か月間で、引き取りの際には1,000円をいただいている。この料金は、条例で制定している。東口等の歩道で放置された自転車は札をつけて1か月間状況を見て、撤去している。保管期間は6か月間で、その間、所有者などを探し、申出がない場合は、そのまま廃棄処分を行っている。

- (4) 不法投棄の廃家電関係について、現状、どの程度の量となっているのか聞きたい。

不法投棄は、平成22年8月末現在で、昨年対比46%となっている。回収率は、昨年対比55%となっている。家電は484台、パソコンは17台。回収量は、115,978キログラムとなっている。

- (5) ポイ捨て条例はいつから施行するのか聞きたい。

パブリックコメントは9月24日に終了した。また公表するが、43名から意見があった。意見を踏まえ、庁内で検討し、議案を12月議会に提出する。議決後、来年度4月当初から施行していく予定である。

- (4) 罰則規定に関する意見はあったのか聞ききたい。

5件ほどあった。43名から意見があったが、条例の制定に関しては、反対の意見はなかった。条例の制定そのものは賛成だが、中身について、罰則規定、灰皿の設置など、色々な意見があったので、庁内で精査し、公表しながら、来年4月の施行を目指していく。

6 ワークショップ

テーマ 政策2 - 3 良好な生活環境の形成

2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。

公表

廃水等について、事業所がどの程度改善策を行ったのか分からない、見えない。
 大気汚染に関して工場等事業所がどの程度改善策を行ったのか分からない、見えない。
 CSRの観点からも公表すべきである。
 CSR 企業の社会的責任

下水道

下水道の市街地中心の接続が低い。
 下水が整備され、川がきれいになったが、まだ悪臭があるため、水洗化率の向上を図る。
 環境税を徴収すべきである。(対象者は、現在、下水道料金を免れている)
 水洗化率が向上し、身近な水路の水質がよくなり、悪臭がほとんどなくなった。
 下水道に接続させていない家がある。(タレ流し)

不法投棄

ごみゼロ運動など美化活動が継続している。
 河川敷、山林へのごみの不法投棄が後を絶たない。
 不法投棄に対する住民の目が厳しくなっている。
 中山間地域では、不法投棄が多く見られる。
 市内の数ヶ所に、曜日 時間の制限のないゴミステーションを設ける。
 中山間地に行くと不法投棄が目立つ。良い解決策があるか。
 ごみ等のポイ捨てがなかなかなくなる。
 市外地の河川(支流)が非常に荒れている。

公園の質

身近な公園である街区公園の数が少ない。
 街区公園が児童遊園程度の規模(面積)であり、質が低い。
 立派な公園が多く、予算をかけすぎである。土地の歴史をいかして公園をつくる。
 飯綱高原は、都市計画区域に指定され、乱開発がなく良好な住宅環境が維持されている。
 全国的に市民参加の公園づくりが進んでいるが、愛護会という名称は古い。
 一の鳥居苑地や大座法師池周辺は良く整備され、市民の利用が多く見られる。
 大座法師池(小天狗の森)が非常に混雑する時(休日)がある。

親水空間

親水空間として整備されている場所は、質が高いが、量が少ない。質のグレードを分け、量を増やす。
 親水性のある水辺は増えていない。
 親水水辺に関して、イベント開催等で周知する。
 親水性水路が活用されていない。

コミュニティ

住民関係が薄れてきており、昔のような地区においての良い関係が保ちづらくなってきている。

里山(中山間地)

高齢化がすすんで山間部の荒廃地が増えてきている。
 グランドデザインが不動産に任されている。農地が宅地化されている。
 農的環境を創造する。(森林、農地)

緑化

街路樹の剪定・管理が悪い。
 屋上緑化が進んでいない。
 屋上緑化に対する補助金の支給、ノウハウの提供が必要である。
 利用されていない街区公園・児童公園が多い。質の向上を図る。
 街路樹が貧相である。
 街路樹に関して専門家の意見を取り入れるべきである。
 長野松代インターよりバイパスの植樹帯が草だらけだが、国道のため改善の糸口が見えない。
 駐車場の緑化(緑地面積)が増えている。
 駐車場の一定の緑化面積の義務化(見直し)が必要である。
 街路樹が生育不良である。
 強度な剪定のため十分な緑の効果が望めないケースがよく見られる。
 長野市にふさわしい街路樹のあり方を検討し、方策を立てる必要がある。
 樹木等の緑の少ない公園が多く、公園緑地面積に対し、実質的な緑の量が少ない。

Bグループ

政策 2 - 3 良好な生活環境の形成

ごみ

産廃

廃棄物の該当性への判断の基準にあいまいな点がある。

産業廃棄物と一般廃棄物の区分が紛らわしい。

廃棄物の処理に係る許可申請等に対する適正な審査が行われている。

法の規則のかからない施設、業に対する指導に限界がある。

一廃

ごみ集積所がごみ収集前の資源の持ち去りにより、ごみが散乱し、悪臭がある。

家庭ごみの分別は、費用の面で有効である。更に分別できると更に良い。

家庭ごみ(可燃)を市が1リットル1円という手数料で回収してくれる。

ごみリサイクル100%を目指す。

剪定枝が資源で回収されることとなった。

ポイ捨て、特にたばこのポイ捨てが多い。

公共施設でのたばこの禁煙は当たり前であり、民間施設でも禁煙すべきである。

街中にごみが多く、特にたばこのポイ捨てが目立つ。

モラル

山への不法投棄をなくす。

川へのごみの投げ捨てが多い。

ごみを捨てた人にはペナルティをかけるべきである。

放置自転車は歩道の邪魔である。

高齢者の中には、ごみ出しが困難な人がいる。

住民自治協議会での取り組み。

緑

緑化推進

企業の緑化が進まない。

庭のない人、マンションの人は、記念樹をもらえない。

公園ニーズ

ドッグラン公園を整備する。

幹線道路沿線が荒れている。草取り、剪定などが行われていない。

公園での犬のフンが目立つ。

ムクドリが増加など生態系が変化している。

市街地

中心市街地にピオトープが少ない。

長野駅西口の緑関係のインパクトが少なく、長野市のイメージが悪い。

中心市街地に公園、緑が少ない。

長野市の街中は、ポケットパークなどの整備がすすんでいる。

商店会の協力もあり、花フェスタが根付いてきた。

戸隠など自然の美しい所が多い。

光

光

24時間営業の店の騒音・光害の問題がある。

フルカットの外灯設置が出てきているのがあまり知られていない。

技術・管理

街路樹の剪定技術を向上する必要がある。

街路樹の舗装の押し上げが課題である。

樹木の伸長と枝払いには、緑化と倒木対策の両面を考慮する必要がある。

ホテルがある所が増えている。(増やす活動が広がっている)

住民意識

朝、周辺の企業がごみ拾いをしている。

緑に対する認識が低い。

身近な道路や川の掃除は、隣近所でやるべきである。

地域の街路樹や共有部分の草取り・草刈りができない地域がでてくる。

公園愛護会等に住民自治協議会が機能していない。

公園の維持管理にかかるコストが(将来)心配である。

水

水道

水資源の所有者が海外になる不安がある。

水道のカルキ臭が強い。

配水管の老朽化が原因なのか、事故がおこっている。

河川

護岸を石積みなどで整備し、水と親しむ空間を作っていく。

長野市内を流れる中小河川は都市に流れる河川としてはきれいである。

費用負担を考えた上で、自然に配慮した水路の整備(維持管理)を実施する。

川の権利は、親水性活動への弊害となっている。

市街地に川が見られない。自然さがほしい。

下水汚水

汚水を川に流す人には、ペナルティを課すべきである。

合併浄化槽を市が管理できるようになった。

下水の普及で早く来て欲しいが、来るとなると費用がかかるのでいいらない。

下水道負担金が高く、土地の面積割合が上水道と同じである。

工場等の廃水が安全か市民は確認できない。

未水洗化は高齢化世代の問題があるのではないか。